

「伝道への憶病風はどこから？」(2024. 7. 21)
味わい、見よ、主の恵み深さを。(詩 34:9)

<質問者>

聖書、福音を心から信じている者にとって、それを伝えた時に拒否されれば、まるで自分の全人格を否定された気分になります。何度となくそのような苦しみを経験すると、なかなか立ち直ることが出来ません。よきアドバイスをいただければと願っております。

<回答者>

最近、自分の中で“これぞ伝道”と思った事がある。それは美味しいものを食べて、人に「うめえ！これ食べてみろ」と勧めたとき。そんなとき、相手が「いらねえよ」って言ってもこっちは全然傷つかない。「ああ、もったいない。おまえはすごいチャンスを逃した」と思うくらいだ。だが、もしそこで少しでも傷つくとしたら、それは“本当に美味しい”と言う確信が無いからかもしれない。なぜ傷つくんだ？現実体験として食べて美味しいと実感しているのに、それを否定されようがされまいが、関係ない。もしかして、救いの体験をリアルなものとして感じていないからではないだろうか？

実は僕はここにこそ日本でキリスト教が広まらない理由があると思っている。救いや福音を、実は自分の中にある“思い込み”や“妄想”みたいに思っているからじゃないか。妄想を否定されればそれは傷つく。半ば確信が無いからだ。だから相手に上手く伝わらない。そして、ますます内向きになる。本当に素晴らしいものだったら、人は命令されなくても伝えようとする。だからこそキリストの福音は今日まで、そして日本にまで伝わった。ガブリとかじりついて「美味しい」と言わせるような、ダイナミックな伝道をしたい。牧師や神父を見て、そこに在りし日のイエスやパウロを見出せるだろうか？僕にはサラリーマンしか見出せないのだが・・・。(一部修正して記載)

上掲のやり取りをネットで発見して保存していました。2010. 7. 10の記録があるので、神学生時代のもので。質問者の気持ちに共感し、回答に納得したところがあったからでしょう。今、私を含め教会に臆病風が吹いていないだろうか？もし、そうだとしたらもう一度洗礼・聖餐の恵みに立ち返り、ガブリとかじりついて、全き罪の赦し、キリストの現臨の「美味しさ」をまず自分が味わい、見る！ここから始めたいと思う。